様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　５月３１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：１９５２０６４６
研究課題名（和文）　黒死病と宗教美術との相関関係の研究

研究課題名（英文）　A study of the correlation of plague and religious art

研究代表者
石坂　尚武（ISHIZAKA NAOTAKE）
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：６０２７８４５５

研究成果の概要（和文）：疫病(ペスト)の発生と聖セバスティアヌス像などの宗教美術作品の間には相関関係があった。疫病は宗教美術の制作に重要な作用を及ぼした。したがって、中近世の歴史において、聖セバスティアヌスの作品を通じて、ある程度まで疫病の発生を特定することができる。

研究成果の概要（英文）：There was a correlation between the outbreak of the plague and works of religious art such as S. Sebastian. The plague had an important influence on producing works of religious art. Therefore through works of religious art such as works of S. Sebastian we can identify, to some extent, the places and dates of the outbreaks of plagues in medieval history and pre-modern times.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	600,000	180,000	780,000
２００８年度	900,000	270,000	1,170,000
２００９年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：西洋史　中近世
科研費の分科・細目：史学・西洋史
キーワード：ペスト　黒死病　宗教美術　中近世　イタリア史　セバスティアヌス

１．研究開始当初の背景

美術作品の制作の背景に疫病がどれだけ存在していたかについて、個々の作品については触れられているものの、大きな視点では、ほとんど追求されてきなかった。疫病に関連した相当な量の宗教絵画の制作をその制作年と疫病の発生地域との関係で結び付けて考察することはなされなかった。

２．研究の目的

従来から中近世において絵画の制作については宗教的要素が強く認められることは当然のことである。しかし疫病が絵画（美術）の制作に強い影響を与えたことについては、疫病発生地域や疫病発生年との関わりからは、これまで追求や認識はあまりなされてこなかった。この研究では疫病が神罰であるという当時の人々の認識により、神の怒りをなだめるという観点から、きわめて宗教的な色彩を帯びたかたちとして絵画制作がなされたことを、具体的に疫病除け聖人である聖セバスティアヌスを表現した美術作品に焦点をすえることから追究することを目的とする。まず、疫病が頻繁に襲った地域とそうでない地域との比較を疫病除け聖人であるセバスティアヌス絵画の所蔵率から比べる。次に疫病が多発した時代とほとんど発生しなかった時代とを比較する。この２種類の比較により疫病が絵画（美術）制作に与えた可能性が認識されることになるであろう。

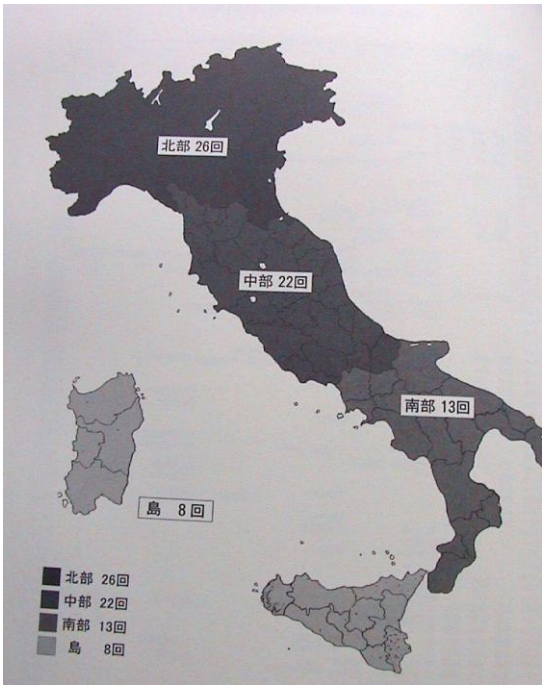
３．研究の方法

報告者はこれまで 10 年間毎年夏にイタリアの各地の教会へ足を運び、その内部を調査しセバスティアヌス像の有無を確認してきた。調査したイタリアの教会の数は 602 点に及ぶ（この 602 点の他に、わざわざそこへ行っても残念ながら閉鎖されていて中に入れなかった教会も、実は相当数ある）。こうしてその教会に所蔵されていたセバスティアヌス像を撮影したり、美術館や研究書・美術書に掲載されていたセバスティアヌス像をみずから撮影して、その数約 500 点の聖セバスティアヌス像の図版を集めることができた。この研究方法（調査）によってペスト発生とセバスティアヌス制作との間に相関性が存在するかを確認しようとした。

４．研究成果

調査結果として、まずイタリアにおけるペストの発生率の地域差を見る。ペスト（黒死病）の周期性２年から 20 年である。イタリアにおいて 1347 年から 1657 年までの 300 年間においても周期性をもってペストが発生した。「北部・中部・南部・島」のそれぞれにおいて発生回数、つまり発生頻度が特定されている。発生の頻度は北部が最も高く、次いで中部、次に南部、そして最後に島であることがわかる。

北部　２６回
中部　２２回
南部　１３回
島　　８回



「イタリアの教会の州別の調査報告－セバスティアヌス像所蔵率－」は北部・中部・南部・島の各地域を回って調査した６０２の教会のセバスティアヌス像の所蔵状況（所蔵の

有無）が記されている。所蔵率の最も高いのは北部の３４パーセント、次いで中部の２４パーセント、次に南部の１４パーセント、最後の島の１０パーセントである。

イタリアの教会の州別の調査：セバスティアヌス像所蔵率

	州	調査した教会の数	所蔵する教会	教会の所蔵率
北部	ロンバルディーア	81	23	34 %
	エーミリア=ロマーニャ	25	11	
	ヴェネト	39	19	
	トレンティーノ=アルト=アディジェ	15	4	
	リグーリア	11	2	
	フリウリ=ヴェネツィア=ジュリア	5	2	
	ピエモンテ	11	2	
	ヴァッレ・ダオスタ	3	1	
	計	190	64	
中部	トスカーナ	89	20	24 %
	ウンブリア	58	16	
	ラツィオ	62	15	
	マルケ(5/18)&モリーゼ(0/6)	24	5	
	アブルッツォ	18	4	
	計	251	60	
南部	プーリア	31	5	14 %
	カンパーニア	21	3	
	カラブリア	16	2	
	バジリカータ	4	0	
	計	72	10	
島	サルデーニャ	29	2	10 %
	シチーリア	60	7	
	計	89	9	
全体計		602	143	23.8% (20.5%)

北部　３４パーセント
中部　２４パーセント
南部　１４パーセント
島　　１０パーセント

この二つの表のなかの発生頻度と所蔵率をそれぞれ比に直して比較してみると以下のようになる。

	発生頻度の比	所蔵率の比
北部	３８	４１
中部	３２	３０
南部	１９	１７
島	１１	１２

この表によってペストの発生頻度の高さとセバスティアヌス像の所蔵率の高さに極めて高い相関性があることが示されよう。

次にペストの多発した時期の 70 年間（1470～1539）とペストの発生の少ない時期の 70 年間（1577～1646）とを取り上げて、それぞれの時代にどの程度セバスティアヌスの作品が制作されたかを見る。発表者は、これまでに教会や美術館、研究書・美術書などから約 500 点のセバスティアヌス像を図版として手に入れたが、そのうち公式の記録として制作年代がわかっているものが約 150 点ある。その作品を「ペスト（黒死病）の周期性」のなかにあてはめてみたのが、「ペストの多い時期」（1470～1540）、「ペストの少ない時期」（1577～1647）である。

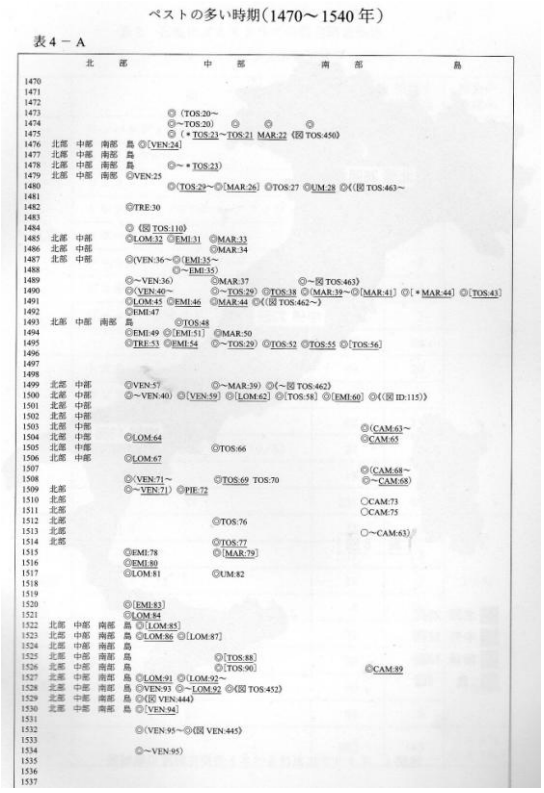

ペストの多い時期（1470～1540 年）

表4－A

	北部	中部	南部	島
1470				
1471				
1472				
1473		◎〔TOS:20～		
1474		◎～TOS:20〕 ◎ ◎ ◎		
1475		◎〔＊TOS:21～TOS:21 MAR:22〕〔図 TOS:450〕		
1476	北部 中部 南部 島	◎〔VEN:24〕		
1477	北部 中部 南部 島			
1478	北部 中部 南部 島	◎～＊TOS:21〕		
1479	北部 中部 南部	◎VEN:25		
1480		◎〔TOS:29～◎〔MAR:26〕 ◎TOS:27 ◎UM:28 ◎〔〔図 TOS:463～		
1481				
1482		◎TRE:30		
1483				
1484		◎〔図 TOS:110〕		
1485	北部 中部	◎LOM:32 ◎EMI:31 ◎MAR:33		
1486	北部 中部	◎MAR:34		
1487	北部 中部	◎〔VEN:36～◎〔EMI:35～		
1488		◎～EMI:35〕		
1489		◎～VEN:36〕 ◎MAR:37 ◎～〔図 TOS:463〕		
1490		◎〔VEN:40～ ◎～TOS:29〕 ◎TOS:38 ◎〔MAR:39～◎〔MAR:41〕 ◎〔＊MAR:44〕 ◎〔TOS:43〕		
1491		◎LOM:45 ◎EMI:46 ◎MAR:44 ◎〔〔図 TOS:462～〕		
1492		◎EMI:47		
1493	北部 中部 南部	島 ◎TOS:48		
1494		◎EMI:49 ◎〔EMI:51〕 ◎MAR:50		
1495		◎TRE:53 ◎EMI:54 ◎～TOS:29〕 ◎TOS:52 ◎TOS:55 ◎〔TOS:56〕		
1496				
1497				
1498				
1499	北部 中部	◎VEN:57 ◎～MAR:39〕 ◎〔～〔図 TOS:462〕		
1500	北部 中部	◎～VEN:40〕 ◎〔VEN:59〕 ◎〔LOM:62〕 ◎〔TOS:58〕 ◎〔EMI:60〕 ◎〔〔図 ID:115〕〕		
1501	北部 中部			
1502	北部 中部			
1503	北部 中部			◎〔CAM:63～
1504	北部 中部	◎LOM:64		◎CAM:65
1505	北部 中部	◎TOS:66		
1506	北部 中部	◎LOM:67		
1507				◎〔CAM:68～
1508		◎〔VEN:71～ ◎TOS:69 TOS:70		◎～CAM:68〕
1509	北部	◎～VEN:71〕 ◎PIE:72		
1510	北部			○CAM:73
1511	北部			○CAM:75
1512	北部	◎TOS:76		
1513	北部			○～CAM:63〕
1514	北部	◎TOS:77		
1515		◎EMI:78 ◎〔MAR:79〕		
1516		◎EMI:80		
1517		◎LOM:81 ◎UM:82		
1518				
1519				
1520		◎〔EMI:83〕		
1521		◎LOM:84		
1522	北部 中部 南部 島	◎〔LOM:85〕		
1523	北部 中部 南部 島	◎LOM:86 ◎〔LOM:87〕		
1524	北部 中部 南部 島			
1525	北部 中部 南部 島	◎〔TOS:88〕		
1526	北部 中部 南部 島	◎〔TOS:96〕		◎CAM:89
1527	北部 中部 南部 島	◎LOM:91 ◎〔LOM:92～		
1528	北部 中部 南部 島	◎VEN:93 ◎～LOM:92 ◎〔図 TOS:452〕		
1529	北部 中部 南部 島	◎〔図 VEN:444〕		
1530	北部 中部 南部 島	◎〔VEN:94〕		
1531				
1532		◎〔VEN:95～◎〔図 VEN:445〕		
1533				
1534		◎～VEN:95〕		
1535				
1536				
1537				

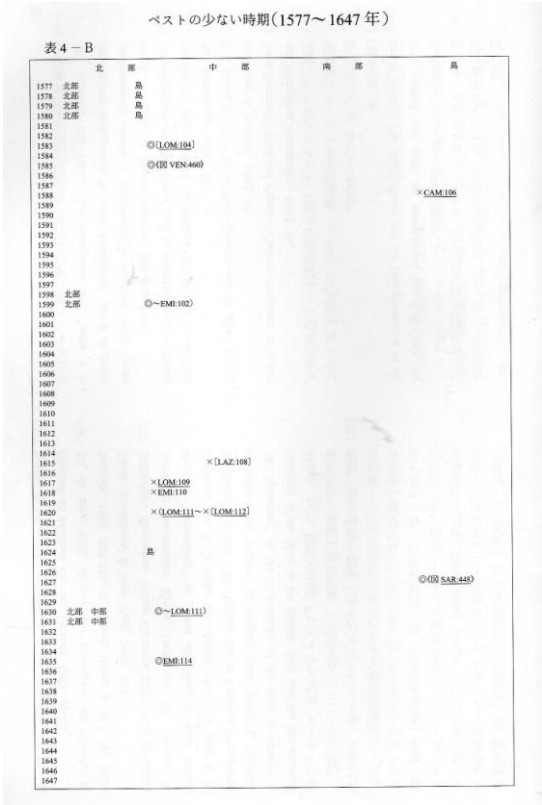

ペストの少ない時期（1577～1647 年）

表4－B

	北部	中部	南部	島
1577	北部	島		
1578	北部	島		
1579	北部	島		
1580	北部	島		
1581				
1582				
1583		◎〔LOM:104〕		
1584				
1585		◎〔図 VEN:460〕		
1586				
1587				
1588				×CAM:106
1589				
1590				
1591				
1592				
1593				
1594				
1595				
1596				
1597				
1598	北部			
1599	北部	◎～EMI:102〕		
1600				
1601				
1602				
1603				
1604				
1605				
1606				
1607				
1608				
1609				
1610				
1611				
1612				
1613				
1614				
1615		×〔LAZ:108〕		
1616				
1617		×LOM:109		
1618		×EMI:110		
1619				
1620		×〔LOM:111～×〔LOM:112〕		
1621				
1622				
1623				
1624		島		
1625				
1626				
1627				◎〔図 SAR:448〕
1628				
1629				
1630	北部 中部	◎～LOM:111〕		
1631	北部 中部			
1632				
1633				
1634				
1635		◎EMI:114		
1636				
1637				
1638				
1639				
1640				
1641				
1642				
1643				
1644				
1645				
1646				
1647				

「ペストの多い時期」は 70 年間のうち 31 年間がペストの流行していた大変な時期である。この時期において、制作年代の特定されているセバスティアヌス像の 82 点が見出される。

これに対して、「ペストの少ない時期」の 70 年間のうちわずか 9 年しかペストが流行していなかった時期には、制作年代が特定されているセバスティアヌス像はわずか 10 点しか見出されないのである。一定の留保をもちながらも、このことからペストの発生とセバスティアヌス像の制作率とに高い相関性があることを示されるであろう。なぜ留保かといえば，ことによると前者の方の時期は、注文主や画家にとって、祈願の内容を視覚的に伝え、視覚化された図像を通じて聖人を崇拝しようとする新しい流行が強まった時期と折からのペストの頻発の時期とが重なったために、いっそう強い結果が現れた可能性が考えうるからである。

以上のフィールドワークを中心とした研究から、ペストの発生頻度の高い地域や、ペストの発生の多かった時期においては、セバスティアヌス像の制作が刺激されたということ、すなわちペストとセバスティアヌス像制作との間に一定の相関性が認められるということがいえるであろう。

こうした傾向はイタリアの 20 の州には 102 の県があり、それらのなかにその地域を代表する 199 の大聖堂のセバスティアヌス像の所蔵率の傾向ともほぼ一致する。次の表「イタリアの大聖堂のセバスティアヌス像の所蔵率」はそれを示す。

これは報告者がみずから訪問して調査した大聖堂の他に訪問ができなかった大聖堂にアンケート調査（過去 3 回郵送による調査）をおこなったものによる結果である。調査の回答が得られないものについては電話による調査も行った。その結果は以下のとおりであり、上の個別の教会の調査の結果と符合するものである。

イタリアの大聖堂のセバスティアヌス像の所蔵率

		大聖堂総数	点検数	所蔵数	所蔵率
イタリア北部					
西部					
A：ヴァッレ・ダオスタ	AOS	1	1	1	42%
B：ピエモンテ	PIE	15	9	3	
C：リグーリア	LIG	4	2	1	
中部					
D：ロンバルディーア	LOM	10	10	8	63%
E：エミリア=ロマーニャ	EMI	12	9	4	
東部					
F：トレンティーノ=アルト・アディジェ	TRE	2	2	0	55%
G：ヴェーネト	VEN	10	7	4	
H：フリウリ=ヴェネツィア=ジューリア	FRI	4	2	2	
イタリア北部の合計		58	42	23	55%
イタリア中部					
西部					
I：トスカーナ	TOS	18	17	12	53%
J：ウンブリア	UMB	9	8	4	
K：ラツィオ	LAZ	9	9	2	
東部					
L：マルケ	MAR	11	9	3	22%
M：アブルッツォ	ABR	7	5	0	
N：モリーゼ	MOL	5	4	1	
イタリア中部の合計		59	52	22	42%
イタリア南部					
東部					
O：プーリア	PUG	16	12	2	16%
西部					
P：カンパーニア	CAM	17	8	2	25%
Q：バジリカータ	BAS	7	6	1	
R：カラーブリア	CAL	15	7	3	
イタリア南部の合計		55	33	8	24%
イタリアの島					
S：サルデーニャ	SAR	9	4	2	41%
T：シチリア	SIC	18	13	5	
イタリアの島の合計		27	17	7	41%
イタリア全体		199	144	60	42%

なお、『史学雑誌』第 118 編第 5 号(「2008 年の歴史学界－回顧と展望－」、「中世－西欧・南欧－」、318 頁)においてもこの相関関係の研究は「興味深いデータの提供」として評価された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

① 石坂尚武、人文学会、査読有、イタリアの黒死病関係史料集(7)、第 184 号、2009、25-189。
② 石坂尚武、人文学会、査読有、イタリアの黒死病関係史料集(6)、第 182 号、2008、87-144。
③ 石坂尚武、文化史学会、査読有、イタリアの大聖堂のセバスティアヌス像の所蔵状況―第二回アンケート調査報告―、2007、155-170。

６．研究組織
(1)研究代表者
石坂尚武（ISHIZAKA　NAOTAKE）
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：19520646

(2)研究分担者
無し

(3)連携研究者
無し